

研究課題：臨床所見・腎組織所見毎にみた IgA 腎症に対する扁摘パルス療法の治療反応性

【研究の目的及び意義】 IgA 腎症は糸球体毛細血管炎によって生じる血尿が先行し、その後糸球体毛細血管係蹄の癒着、半月体形成、分節性硬化に進展し、蛋白尿増加や腎機能障害を来す疾患です。

IgA 腎症に対する治療として扁摘パルス療法はアジア諸国を中心に広がりを見せており、当院でも積極的に施行しておりますが、実際に各臨床・病理組織所見毎に扁摘パルスの治療反応性を評価した研究は少ないのが現状です。

今回我々は、臨床所見、病理所見別にみた IgA 腎症に対する扁摘パルスの治療反応性に関して研究し、日常診療におけるより良い治療法選択を目指したいと考えております。

【研究対象者・方法】 2006 年～2018 年までの間に成田記念病院にて腎生検を施行され、IgA 腎症と診断された患者様。

対象者の臨床所見、組織所見を後方視的に調べ、扁摘パルス施行後の eGFR 低下率、血尿・蛋白尿の寛解等に関しまして、各臨床・組織所見毎に評価致します。

【倫理的配慮・安全性】 本研究は後ろ向き観察研究であり治療介入は行われぬ為、患者様に対する安全性は保障されます。

患者氏名、年齢、性別などの個人情報には匿名化され、一切公表されることはなく、プライバシーは厳重に保護されます。

研究成果は学会発表や論文に掲載予定ですが、この際も個人情報は一切公表致しません。本研究への参加は患者様の自由意志であり、研究に御参加頂けない場合においても診療上一切の不利益はございません。

住所：愛知県豊橋市羽根井本町 134

成田記念病院 腎・糖尿病科

研究責任者 永井 将哲